

国語基礎学力テスト文法・語句問題

令和三年度 第二回

- 3 「栄」を左のような行書で書いた石田さんは、先生から「木」の部分に点画の方向を変化させてみよう。」とアドバイスをもらった。アドバイスを参考に、「木」の部分を書き換え、「栄」を完成させなさい。

栄

- 4 次の文から形容詞をそのままの形で抜き出して書きなさい。

雷の大きな音がこもまで聞こえて、とても怖かった。

- 1 〰〰〰線部「高座にいる嘶家さんの声に耳を澄ませ、声をあげて笑っている。」を文節に区切ると、いくつになるか。漢数字で書きなさい。

- 1 〰〰〰線部「役割」は重箱読みをする熟語（上の漢字を音、下の漢字を訓で読む熟語）だが、次のア〜オの熟語のうち、同じ重箱読みをする熟語をすべて選び、記号で答えなさい。

ア 献立 イ 空間 ウ 残高 エ 値段 オ 目印

令和三年度 第一回

- 3 行書で書かれたア〜エの漢字のうち、楷書で書いた場合の画数が「最」と同じものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 税 イ 訓 ウ 魚 エ 料

- 4 次の文の主語を抜き出して書きなさい。

・夕方になり、海も赤く染まった。

令和二年度 第三回

- 3 次の文を単語に分け、上から六番目の単語の品詞名を、漢字で書きなさい。

冷たい空気に紛れてかすかに甘い梅の香がした。

- 4 行書で書かれたア〜エの漢字のうち、楷書で書いた場合の総画数が最も多いものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 準 イ 裸 ウ 関 エ 越

- 1 〰〰〰線部ア〜エのうち、助動詞「れる・られる」の用法が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 押し戻されて イ いられるのかな ウ 踏まれてしまう エ つぶされる

令和二年度 第二回

- 3 行書の特徴の一つに、筆順の変化がある。次の行書の中で、筆順が変化しているものはどれか。ア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 道 イ 雪 ウ 細 エ 部

- 4 〰〰〰線部「や」は、俳句の切れ目に使われ、感動を表したり、余韻を与えたりする語である。このような働きをする語を何とか、書きなさい。菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村

- 1 〰〰〰線部「つくっ（た）」の動詞の活用の種類を書きなさい。

- 2 (a) に入る体の一部を表す漢字一字を本文中から探し、抜き出して書きなさい。

その蛍光灯をとりかこむ四角い傘との組み合わせは、食事のときに見た色紙の四角と丸の組み合わせの丁度逆であることに気がつき、またもや (a) が躍った。

令和二年度 第一回

- 1 〰〰〰線部「脳」の八画目をなぞりなさい。

- 1 〰〰〰線部を文節に区切るとき、文頭から七番目になる文節を抜き出して書きなさい。

畑に行くときの先頭は自然とボクになっていた。

- 3 [b] に入る最も適切な言葉を、ア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 声 イ 音 ウ 腕 エ 頭

ボクはあつさり [b] をあげた。